

1 道徳科の指導の創意工夫

(1) ローテーション授業の実施

教職員が交代で学年の学級を回って道徳科の授業を行う取組（いわゆる「ローテーション授業」）を行った。自分の専門教科など、得意分野に引きつけて道徳科の授業を展開し、何度も同じ教材で授業を行うことにより、指導力の向上につなげることができた。また、生徒一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することの大切さを全教職員で再認識することができた。

〈先生方の声〉

- 生徒の反応を見て発問を代えるなど、回数を重ねる毎に授業内容を深化させることができた。
- 担任として学級の生徒の新たな側面を知り、生徒理解につながった。
- チームとして生徒に関わることで、授業の展開や発問についての悩みを共有し、よりよい授業に向けて取り組むことができたようになった。
- 同じ教材で複数回授業を実施することで、発問や問い返しの幅が広がり、多様な考えを引き出すことができた。

〈ローテーション授業の記録〉

ローテーション道徳		○教材名 「段ボールベッドへの思い」	
○主題名 勤労			
授業者			
実施日	① 10/17	② 10/24	③ 11/7
実施学級	2年 1組	2年 2組	2年 3組
学習形態	一斉・グループ・トリオ	一斉・グループ・トリオ	一斉・グループ・トリオ
○展開			
	学習活動（○基本発問 ◎中心発問）		学習指導及び活用ツール
導入	1 ○「働くこと」のイメージは？		トリオ
	2 教材を読み、話合う。 「この会社はどうして段ボールベッドをつくっ		
終（お家に帰る、入浴に就いて。） 末（それぞれでよい。）			
★ローテーション道徳について			
〈メリット〉 1回目、2回目の授業を3回目、4回目に生かすことができた。授業の流れを体でわかっているため、自信を持って授業に臨むことができた。			
〈デメリット及び改善点〉 授業を行うことに目が行きすぎ、生徒の評価にまで気が回らなかった。それぞれの授業の評価を授業者同士で確認し合う時間を作るべきだと感じた。			

授業毎に記録を残し、「ローテーション授業」の改善を図った。



〈生徒の声〉

- 先生によって進め方が変わって楽しかった。
- 毎回新鮮な気持ちで取り組むことができた。
- 次の道徳の授業が楽しみになってきた。

(2) トリオ学習の導入

3人グループで話し合う学習指導方法（トリオ学習）を取り入れて授業を実践した。少人数だからこそ生徒は本音を自由に話すことができた。また全体の発表の場面では、生徒同士が相互指名を行っていくことで、より主体的に授業に臨むことができた。



〈先生方の声〉

- 話し合いが活発になり、生徒が主体的に活動していた。
- 普段発言が少ない生徒も3人というグループの中で安心して発言していた。
- 「班の中には○○な意見もありました」という発言が増えてきて、多様な意見に触れることが出来た。
- 他教科においても自分の考えを伝えようとする意欲の向上が見られ、道徳科とそれ以外の教科との相乗効果を感じた。

〈生徒の声〉

- 意見発表の時に、特定の人が発表することが多かったけれど、トリオ学習によって、みんなが意見を発表してそれを共有することができて良かった。
- 3人のグループ編成なので、緊張せずに話すことができて良かった。
- いろいろな人と会話ができたり、意見が聞けたりして、考えを深めることができた。